

チーム新・湯治 活動状況報告

令和7年11月

第7回チーム新・湯治全国大会

環境省 温泉地保護利用推進室

チーム新・湯治とは

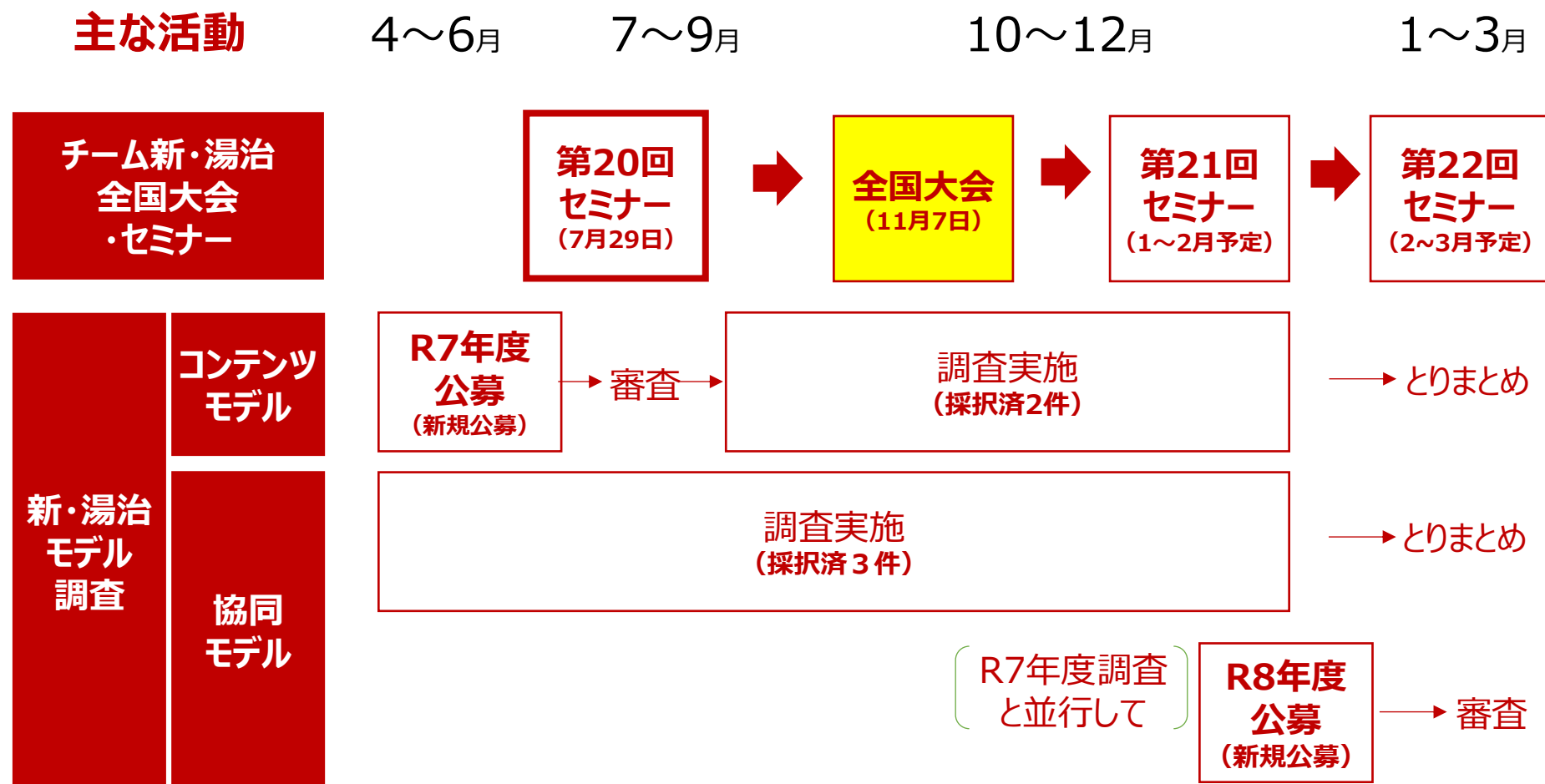
- ✓ 温泉地を中心とした自治体、団体、企業等による
多様なネットワークづくりを目指した取組
- ✓ 本ネットワークを通じて、温泉地において多種多様な連携が生まれ、これまでになかった新しい取組が展開されることが期待
- ✓ 令和7年11月現在469のチーム員

チーム新・湯治 に入ると

- ✓ 参加費は無料
- ✓ 環境省ホームページ、メルマガ配信（月1回）、全国温泉地サミット及びセミナー等、様々なチャネルを通じて情報共有を行い、チーム員間での意見交換の場を設定
- ✓ モデル事業による取組支援の対象に



※第8回全国温泉地サミット・第6回チーム新・湯治全国大会にて



※メールマガジンは月1回程度発行、ニュースレターは、年度内に4回発行予定

- ❑ チーム員同士及び地域の関係者との連携や交流から、温泉地活性化のための新たなコンテンツを創出することを目的に、温泉地を活用したコンテンツ（ツアー、プログラム）をモデル調査として実施。その効果及び有用性等のコンテンツの実現可能性を検証。
- ❑ 外部有識者の意見も踏まえて、令和元年度から令和7年度まで合計17件を採択。
- ❑ モデル調査の成果は、ニュースレターやセミナーで発信。

< 実施例 >

温泉地×身近なマイノリティ [東鳴子温泉] 実施者：鳴子ワカモノ湯治*2



- 東鳴子温泉（宮城県）では、11軒ある温泉旅館のうち6軒で宿泊者は無料で入れる家族風呂や浴場の貸切制度があります。
- 他の温泉地にはないこの特色を活かして、温泉に“入りづらさ”を感じている身近なマイノリティ（性的マイノリティ、乳がん手術経験者等）の方が、日々の生きづらさを忘れて心身の休養・保養ができる環境づくりを「ひとにやさしい温泉地プロジェクト」として進めています。
- 地元温泉地のほか、性的マイノリティの当事者と支援者の団体「東京大学TOPIA」の協力を得ています。性的マイノリティの温泉利用に関する調査では、周囲の視線などから、日頃多くの方が温泉の利用にあたって課題を抱えているという結果が得られ、乳がんの患者コミュニティからも、温泉旅行を諦めていた人も多いという話を伺いました。
- 「湯治ウィーク」（9月23-29日）中に、6軒の旅館の宿泊者に対して貸切風呂の感想やプロジェクトへの意見をアンケート調査した結果、一般宿泊者42名から回答を得て、多くの方からプロジェクトに対する賛同、理解を得ました。一方でマイノリティ当事者の方への調査は難しく、別途モニター調査を実施しています。
- 実際に現地を訪れた当事者の方々はコンセプトに賛同する一方で、案内を充実させてほしいなどの意見が聞かれました。

*2鳴子ワカモノ湯治は、東大温泉サークルOKRが実施する複数あるプロジェクト（チーム）の一つ。

| 年度 | テーマ | 申請者（チーム員） | 実証温泉地 |
|-------|------------------------|-----------------------|------------|
| 令和2年度 | 温泉地×転地療法×地域食材 | 関金温泉振興組合 | 関金温泉（鳥取県） |
| | 温泉地×ワーケーション×リフレッシュチャージ | 松之山温泉合同会社 まんま | 松之山温泉（新潟県） |
| 令和3年度 | 温泉地×ワーケーション×人と自然の共生 | NPO法人 土湯温泉観光協会 | 土湯温泉（福島県） |
| | 温泉地×東洋医学（中医学）×美肌 | 株式会社温泉ビューティー研究所 | 法師温泉（群馬県） |
| | 温泉地×学生×居場所づくり | 鳴子ワカモノ湯治 | 東鳴子温泉（宮城県） |
| 令和4年度 | 温泉地×学知 | 温泉知研究会 | 湯野温泉（山口県） |
| | 温泉地×日本遺産×外国人 | 三朝町観光交流課 | 三朝温泉（鳥取県） |
| 令和5年度 | 温泉地×テロワール×リフレッシュ | 株式会社千歳館 | 松之山温泉（新潟県） |
| | 温泉地×テントサウナ | 温泉知研究会 | 湯野温泉（山口県） |
| 令和6年度 | 温泉地×外国人×公衆浴場の入り方 | 三朝町 | 三朝温泉（鳥取県） |
| | 温泉地×セルフリトリート | オフィス龍球の風 | 鎌倉温泉（宮城県） |
| | 温泉地×企業版「ウェルネスツーリズム」 | 株式会社 めぐみ | 皆生温泉（鳥取県） |
| 令和7年度 | 温泉地×公共交通×大学生 | 東鳴子温泉ひとにやさしい温泉地プロジェクト | 東鳴子温泉（宮城県） |
| | 温泉地×大学生メンタルヘルス支援 | 一般社団法人マイノリティ研究所 | 箱根温泉（神奈川県） |

- 「新・湯治」の効果을把握するため、温泉地が大学や医療機関などの専門機関と連携し、協同モデル調査を実施。
- 外部有識者の意見も踏まえて、令和2年度から令和7年度まで合計20件を採択。
- 温泉地が専門機関と連携することで「新・湯治」の効果を検証しつつ、多種多様な連携が生まれることで、さらに新しい取組が展開されることに期待。

＜実施例＞

新・湯治の効果に関する協同モデル調査（令和4年度調査結果） （「依山湯治ビレッジ」の研究・開発）

新・湯治

調査の目的・概要

山口県を代表する温泉地であり、西の横綱と評されたこともある依山温泉は、1100年前に発見されて以来、リウマチや神経痛への効用から九州四国より多くの来訪者が訪れる療養を目的とした湯治場である。現在、湯治文化をさらに発展させ、地域の食事、歴史探訪、文化体験ができる「依山湯治ビレッジ」として開発を行っている。本調査では環境省が提唱する「新・湯治」の様式にて滞在することにより見られるリラックス効果、及び健康増進の効果に着目し、プログラム前後における唾液中コルチゾール濃度と感情尺度の変化、及び血圧や脈拍、血中酸素濃度の指標の変化について調査を行った。



調査の基本情報

| | |
|--------|---|
| 調査実施主体 | 株式会社SD・WORLD |
| 調査温泉地 | 依山温泉（山口県長門市） |
| 調査テーマ | 「依山湯治ビレッジ」の研究・開発 |
| 連携専門機関 | NPO法人健康と温泉フォーラム 日本温泉気候物理医学会 専門医 |
| 調査時期 | 令和4年9月～令和5年2月 |
| 調査協力者 | 関東・九州など県外および県内より来訪した ソーシャルワーカー/農家など15名 |

考察

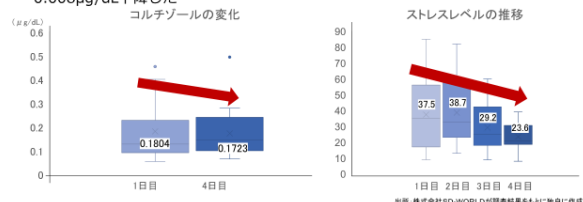
- 感情尺度、及びコルチゾール値ストレスレベル、血圧によって心身の健康状態に対する新・湯治プログラムの効果が一定程度証明された。
- これらは、温泉の温浴効果に加え、歴史探訪ツアーや季節を感じるプログラムの効果であると考えられる。

調査結果のポイント

- コルチゾールは、交換神経優位の際に分泌される副腎皮質ホルモンで、プログラム前よりプログラム後の方がコルチゾールのわずかな下降が見られた。
- 感情尺度評価スコアにおいては、「快感情」「リラックス感」は上昇し、「不安感」は減少した。
- 血圧とストレスレベル、血中酸素濃度は下降し、脈拍は上昇した。

調査した2つの方法どちらにおいてもストレス値は低下していた

- コルチゾール値は、1日目と4日目の同時に計測した際、全体の平均値は0.008μg/dL下降した
- スマートウォッチによって測定したストレスレベルの平均値は下降した



| 年度 | テーマ | 実施主体 | 実施温泉地 |
|-------|---|-----------------|--|
| 令和5年度 | ワーケーション滞在期間別の湯治効果の違いについての実証実験 | 湯治ぐらし | 鉄輪温泉（大分県別府市） |
| | 「コミュカ・モチベーション強化」に資する、交流・共創型ワーケーション | 一般社団法人 日本健康開発財団 | 大仁温泉・修善寺温泉（静岡県伊豆市） 伊豆長岡温泉（静岡県伊豆の国市） |
| | 健康増進に資する日帰り温泉施設を起点とする「温泉療養」×「ワーケーション」 | 有限会社 サンエスメンテナンス | 別府温泉郷（大分県別府市） |
| 令和6年度 | 「単発」と「リピート」の湯治ワーケーション効果の違いに関する実証実験 | 湯治ぐらし | 鉄輪温泉（大分県別府市） |
| | 地域との交流を主軸とした新・湯治プログラム体験による健康増進調査 | 菊池市 | 菊池温泉（熊本県菊池市） |
| | 里山の一軒宿における自然散策とハーブ療法を組み合わせた湯治効果の検証 | オフィス龍球の風 | 鎌倉温泉（宮城県蔵王町） |
| 令和7年度 | 滞在日数別・プログラム別による湯治効果のソート分析×滞在施設における長期&定点マス調査 | 湯治ぐらし | 鉄輪温泉（大分県別府市） |
| | 温泉×産後ケア | 株式会社ママクオリア | 田沢温泉（長野県） |
| | Awe（畏敬の念）体験を活かした新・湯治の可能性 | 株式会社みらいハウスワークス | 秋保温泉（宮城県仙台市） |

< 令和 6 年度開催の概要 >

令和6年度
温泉熱の有効活用促進セミナー

参加無料
オンライン開催 2025年3月4日(火) 13:30~16:30

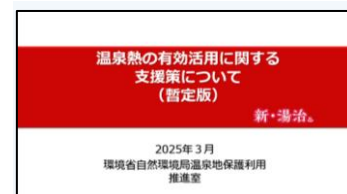
温泉熱は、地域固有の熱源として高いポテンシャルを持ち、また、利用温泉の温度に応じ、様々な段階での利用可能性が非常に高い熱源であることから、地域脱炭素の推進と地域活性化への活用が期待されています。環境省では温泉熱の有効活用に向けて、導入へのステップや先進事例を取りまとめた「温泉熱有効活用に関するガイドライン」を平成30年度に作成しました。その後、同ガイドラインの普及及び温泉熱の有効活用に関する情報提供を行い、更なる温泉熱の有効活用の普及促進を図ることを目的として、温泉熱の利用に関心をお持ちの方（地方公共団体や温泉事業者など）を対象とした「温泉熱の有効活用促進セミナー」を毎年開催しており、今年度も同様に開催します。

プログラム

| | |
|---------------|---|
| 13:30 ~ 13:35 | 開会挨拶 |
| 13:35 ~ 14:05 | 温泉熱の有効活用について |
| 14:05 ~ 14:25 | 温泉熱活用の取組事例紹介 事例1 「秋保グランドホテルでの温泉熱利用」 Karakami HOTELS&RESORTS 株式会社 経営企画室 ファシリティマネージャー 内藤 孝通 氏 |
| 14:25 ~ 14:45 | 温泉熱活用の取組事例紹介 事例2 「温泉排湯機及びボイラー排ガス熱利用ヒートポンプシステム導入」 株式会社ツチャコーポレーション 取締役 温浴事業部 部長 小早川 朝治 氏 |
| 14:45 ~ 15:05 | 温泉熱活用の取組事例紹介 事例3 「遠野温泉の温泉熱カスケード利用と新たに目指す事業展開について」 京業ガスエナジーソリューション株式会社 エンジニアリング本部 エンジニアリング部 プラント営業グループ 担当部長 岡村 善裕 氏 |
| 15:05 ~ 15:15 | 休憩 |
| 15:15 ~ 15:55 | 温泉熱有効活用に向けたコンシェルジュ事業報告について ・事業概要 ・支援先団体からの活動報告 十津川村役場 企画観光課 / 新温泉町役場 商工観光課 / 阿蘇市 経済部まちづくり課 ・意見交換 |
| 15:55 ~ 16:20 | 温泉熱の有効活用に関する環境省の支援策について |
| 16:20 ~ 16:25 | その他 |
| 16:25 ~ 16:30 | 閉会挨拶 |

令和8年2月頃にセミナーを開催予定です。
そこで下記のような次年度の支援策（補助金等）
についてもご紹介し、以下のHPに掲載します。

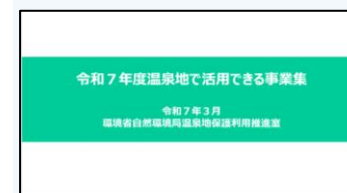
https://www.env.go.jp/nature/onsen/spa/spa_utilizing.html



温泉熱の有効活用に活用可能な補助
事業についてとりまとめたもの。

< 主な支援内容 >

- ・温泉熱の有効活用のための計画策定
- ・温泉熱の有効活用のための設備導入支援（設備改修含む）



令和8年度政府予算（案）等のうち
温泉地で活用できる補助金を幅広く
ピックアップ。

< 主な支援内容 > ※上記に加え、エネ特、旅客税関係を掲載。

- ・既存建築物における省CO2改修
- ・国立公園等の自然を活用した滞在型観光コンテンツ創出
- ・観光地・観光産業再生のための人材育成・確保 等

■コンシェルジュ事業の募集概要

| 募集概要 | 詳細 |
|------|--|
| 目的 | 地域固有の熱源として高いポテンシャルを持つ温泉熱の熱利用についての理解や検討の進め方を浸透させ、温泉熱の有効活用の全国的な普及展開を推進する |
| 実施概要 | 支援希望団体における現状の検討内容・課題等に応じた支援を実施する。具体的には、専門家派遣、勉強会/ワークショップ開催支援等 |
| 対象者 | 地域における地域主体の（もしくは地域と連携した）温泉熱利用を目指す団体 |
| 受付期間 | 令和7年5月7日（水）から令和7年12月22日（月） |

令和7年度 環境省委託業務

温泉熱有効活用に向けたコンシェルジュ事業

本事業では、自主的に温泉熱等の有効活用に向けた検討を進める地域を対象に、勉強会等を実施するための支援事業を行うことにより、地域が主体となった温泉熱等の有効活用の全国的な普及展開を推進します。

温泉熱利用は面白いけれど、検討の進め方がわからない...

温泉熱利用に補助金って使えるの？
どんな補助金があるの？

温泉熱ってどうやって使うの？
導入効果は？

対象者 地域における地域主体の温泉熱利用を目指す団体
※ 組合・温泉事業者等、民間・自治体の団体は、問いません
※ 過年度事業継続団体も対象となりますが、支援希望内容等によっては、過年度事業継続団体を対象としたフォローアップ支援、や対応となる場合があります。詳細は、公募要綱をご確認ください
※ なお、採択件数は5件程度です

支援内容 専門家派遣

- 温泉熱ポテンシャルや熱需要量の把握方法等の検討や具体的な温泉熱等有効利用のアクションプラン(※)策定・事業化検討に向けた技術的助言
- ※1 地域独自の資源(地熱・地熱・地熱)の活用、その活用方法の検討、その活用方法の検討、その活用方法の検討
- 温泉熱のポテンシャルや活用方法等に関する相談・助言
- 既に温泉熱を活用している施設等における課題への助言
- 対象地域に適すると思われる熱利用方法の助言、導入効果の概算(※)等
- ※2 必要に応じて、その活用方法の検討、その活用方法の検討、その活用方法の検討

勉強会/ワークショップ開催支援

- 温泉熱等の有効活用に向けた勉強会やワークショップにおける進行補助・実施方針助言などの開催支援 等

実施期間 令和7年5月～令和8年1月

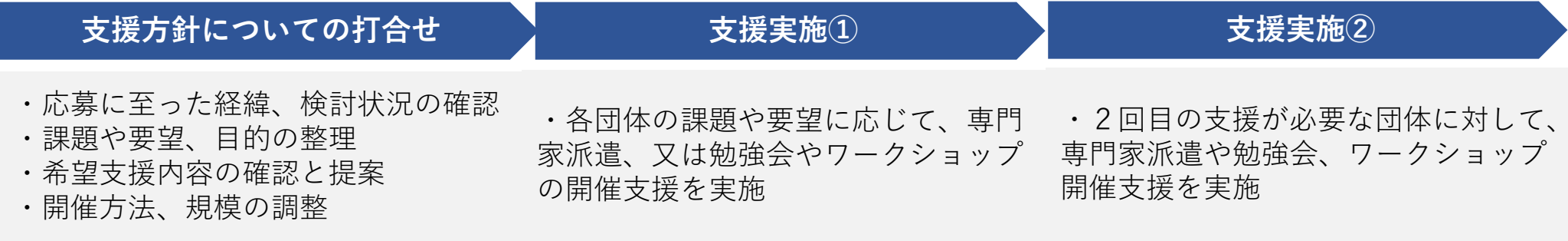
申込方法 電メールにてご提出いただけます。
詳細は公募要綱をご覧ください。
https://management01.com/wp/onsen_concierge_application_7

公募期間 令和7年5月7日(水)～令和7年12月22日(月)17:00必着
※ 募集は受け付け開始から順次行いますので、後継募集が上開に達し、締め切りとさせていただきます。

本事業は、環境省「令和7年度温泉熱等の有効活用等普及促進事業等補助金」の一環で、株式会社温泉熱コンシェルジュが委託を受け、コンシェルジュ事業を実施しています。
お問い合わせ先(公募窓口) 株式会社温泉熱コンシェルジュ 代表 佐藤 大輔 (TEL) 03-5453-3057 (FAX) 03-5453-3064
〒151-0072 東京都渋谷区南横町1-34-14 5階 (E-mail) orsen@oscon.co.jp

公募案内チラシ

■コンシェルジュ事業の流れ



■令和6年度までのコンシェルジュ事業による支援団体

北海道登別市、北海道知内町、山形県遊佐町、福島県三島町、(一社)那須塩原市観光局、西多摩衛生組合、石川県、石川県野々市市、奈良県十津川村、兵庫県新温泉町、スズカ電工(株)、小国山川温泉組合、熊本県阿蘇市

自分たちの世代が温泉を楽しむためにはどうしたらよいか？ 事前アンケート

Q1

若者世代から見た温泉（地）の魅力はどういったものがありますか。

Q2

若者世代が温泉に魅力を感じない要因は何だと考えますか。

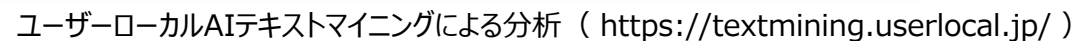
Q3

若者世代が旅行先などで温泉地を選択する決め手は何だと考えますか。

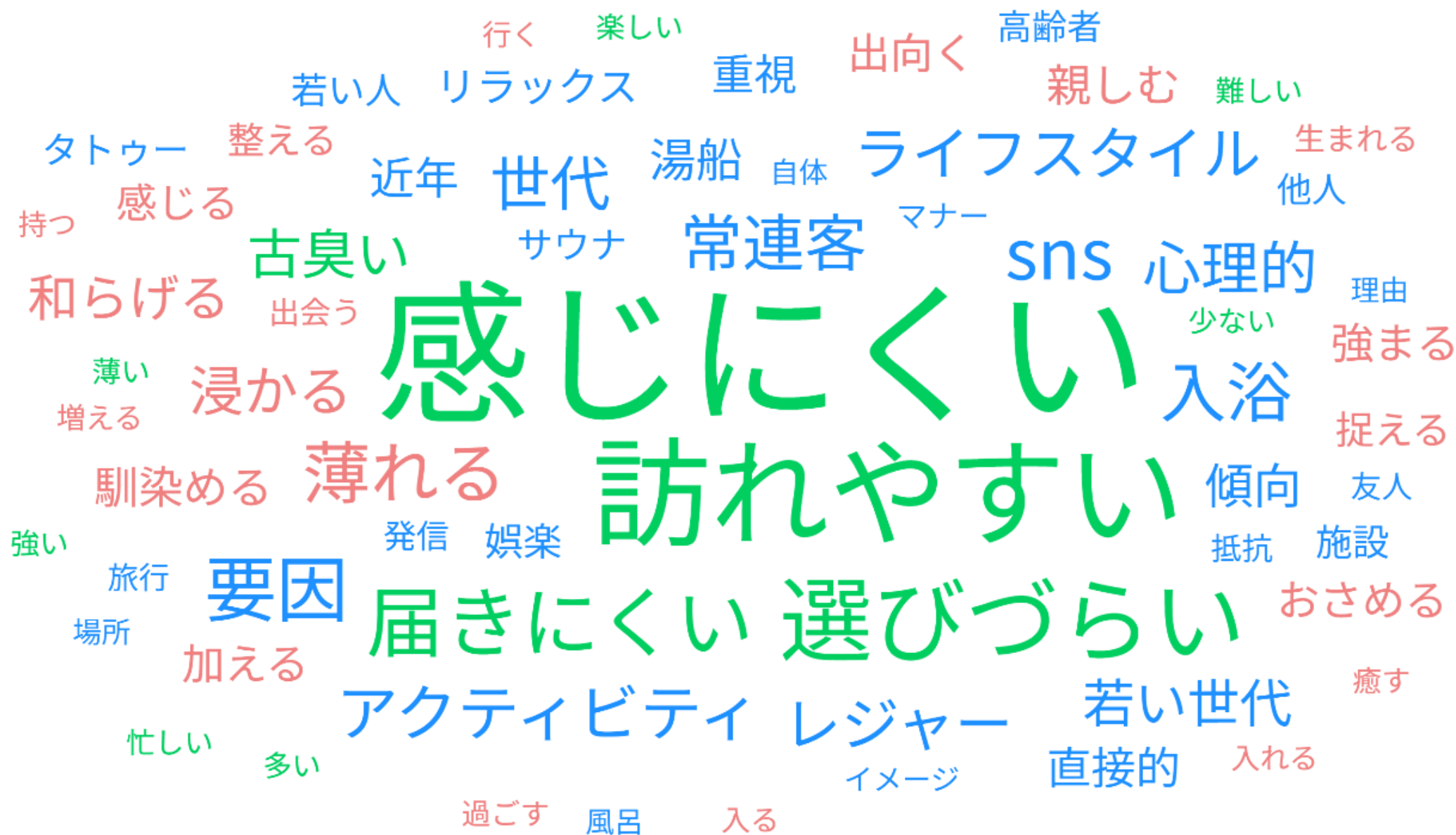
Q4

若者世代が温泉を楽しむために、自分たちが取り組めることは何だと思えますか。

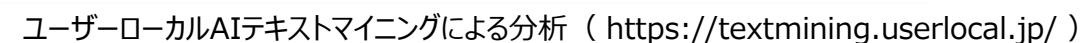
新・湯治



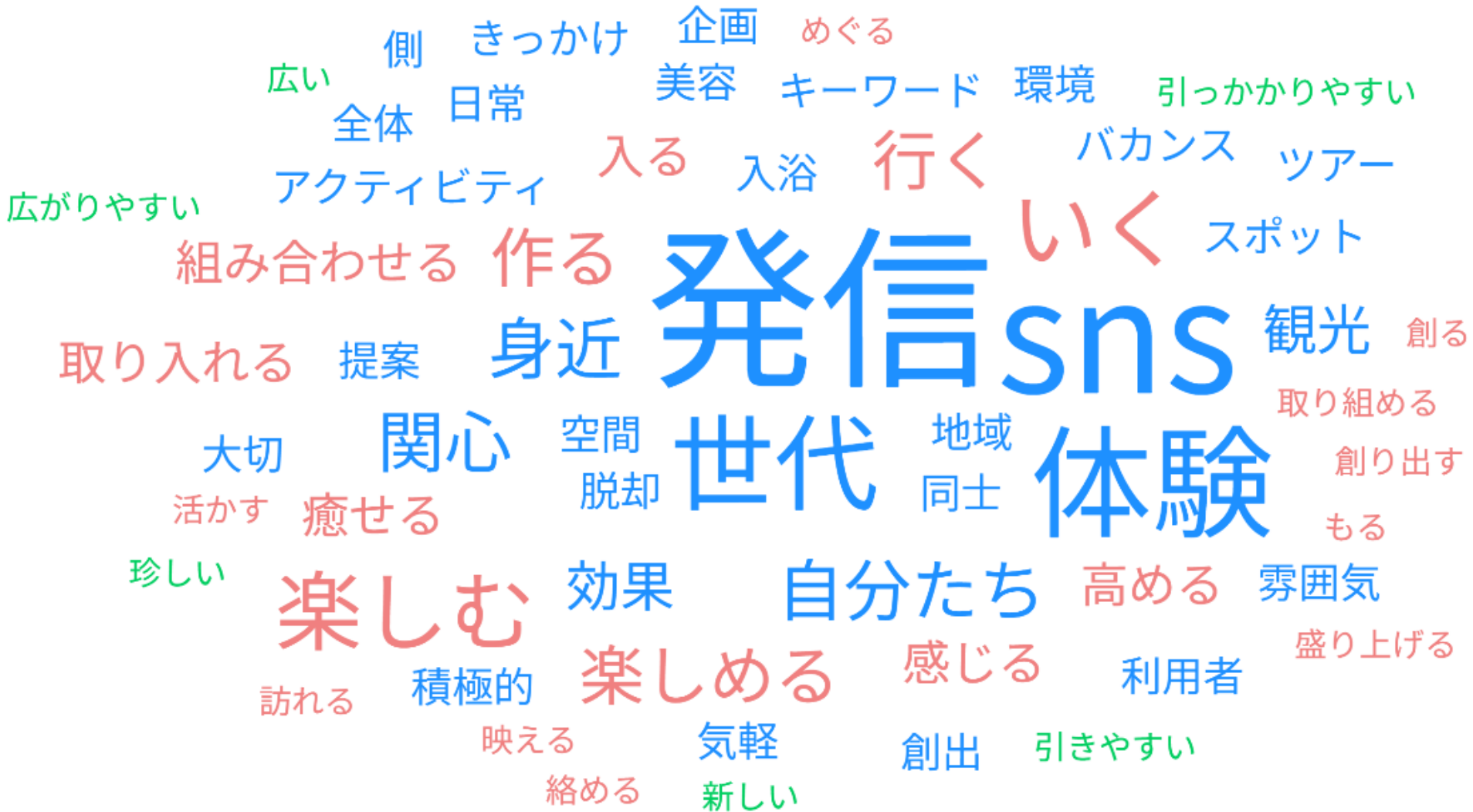
Q2：若者世代が温泉に魅力を感じない要因は何だと考えますか。



新・湯治♨



Q4：若者世代が温泉を楽しむために、自分たちが取り組めることは何だと思いますか。 **新・湯治**



參考資料

温泉地の活性化に向けた取組
～ 新・湯治♨の推進～

温泉地・・・

古くからの温泉地に長期滞在し、
入浴して病気を治療する「湯治」



団体旅行としての温泉地の発展
療養や保養の場としての衰退

国民共有の資源であり、温泉地の核となり、将来世代へ引き継ぐもの
日本は温泉や温泉地が持つチカラを十分に活用していないのではないか

- ストレス社会、高齢化社会であり、ワークライフバランスが求められる現代において、社会全体として、リフレッシュや健康長寿のための場づくり、仕組みづくりが重要
- 官民一体となって地方創生、観光立国（インバウンド対策）を推進

新・湯治
とは

エビデンスも重視！

温泉地の役割を見直し、「新・湯治」を提案

- 温泉入浴に加えて、周辺の自然、歴史・文化、食などを活かした多様なプログラムを楽しむ、地域の人や他の訪問者とふれあい、心身ともに元気になること
- 年代、国籍を問わず楽しめる
- 長期滞在を行うことが効果的

新・湯治推進プラン

…「新・湯治」を提供する場としての新しい温泉地のあり方、環境省や関係機関に求めることをまとめたもの

楽しく、元気になるプログラムの提供

- ・泉質、地域資源を活かしたプログラムの提供
- ・多様な温泉地間の連携による情報発信等
- ・年代、国籍を問わず、長期滞在しやすい宿泊プランづくり

温泉地の環境づくり

- ・外湯めぐりの充実といった「にぎわいの創出」
- ・周辺の自然環境等の地域資源を一体的に評価し、持続的な利用（温泉熱利用、モニタリング）
- ・温泉地を拠点とした広域周遊、国立公園満喫プロジェクトとの連携

「新・湯治」の効果の把握と普及、全国展開

- ・温泉地全体の療養効果等を科学的に把握し、その結果の情報発信
- ・統一フォーマットの提示により、全国的なデータの蓄積、評価、公開
- ・ストレス社会、健康長寿社会における重要性を踏まえた準備

推進体制の構築等

- ・地域会社設立や観光組織（DMO等）の活用による体制づくり、財源確保
- ・地域外の民間企業等との連携
- ・関係省庁の連携

国民保養温泉地が
中核的・先進的な役割

「新・湯治推進プラン」実現に向けた環境省ロードマップ

| | |
|-------------------------------|--|
| 1 「チーム新・湯治」の活動を展開します。 | 「新・湯治」の考えを共有する地域、自治体、団体等を「チーム新・湯治」として緩やかにネットワークでつなぎ、互いに情報・意見交換するとともに、 <u>温泉地と企業等のマッチングを促進</u> します。 |
| 2 全国「新・湯治」効果測定調査プロジェクトを実施します。 | 温泉地で過ごすことの <u>リフレッシュ効果等を把握する調査を全国で実施</u> し、結果を温泉地のPR等に活用します。 |
| 3 温泉熱の有効活用を進めます。 | 温泉熱の有効活用は、温暖化対策や地域経済の安定に重要ですが、活用が進んでいるとは言えません。 <u>ガイドラインなどのツールを作成して普及を図るとともに、補助事業の効果的な運用を行います。</u> |
| 4 国民保養温泉地の活用方法を検討します。 | 国民保養温泉地は、国民の保養・休養の場として環境省が指定している温泉地であり、「新・湯治推進プラン」の中核的な役割を担うことが求められます。 <u>国民保養温泉地の社会的な意義を改めて見直し、その向上に努めます。</u> |
| 5 インバウンド対策を推進します。 | 外国人旅行者のニーズが多様化する中で、温泉地への旅行者も増加傾向にあります。「チーム新・湯治」において、 <u>インバウンドをテーマとしたセミナーを開催するなどにより情報提供などを行います。</u> |